



中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第十回 霧社事件

期末レポートについて

テーマ：この授業で扱った問題に関する書籍または論文を読み、その内容を要約し、あなたの考えを書いてください

文字数：2000字以上

書式：A4用紙に横書き両面印刷

提出日：最終回の授業で

参考：<http://fic.xsrv.jp/elgg>

秀吉の再評価から始まった近代日本

〔解説〕

一五九二年から前後七年に及んだ朝鮮出兵により、東アジアの人々の心に深い負の対日イメージを刻み込んだ豊臣秀吉。秀吉は没後、朝廷から豊国大明神の神号を与えられ、神として神社に祀られた。

しかし、江戸時代になると幕府の意向により神号は剥奪され、神社も廃絶となった。



惟杏永哲賛「豊国大明神像」(慶長5年(1600))

秀吉の再評価から始まった近代日本

〔解説〕

ところが明治時代になると秀吉は、「皇威を海外に宣べ、数百年の後、猶も彼（中国や朝鮮を指す）をして寒心せしむ。その国家に大勲功ある、今古に超越する」*と再評価され、耳塚の向かいに秀吉を祀る神社が再建された。

*『御親征行幸中行在処日誌』第七号

慶応四年（一八六八）『維新日誌』巻二所収

京都・豊国神社

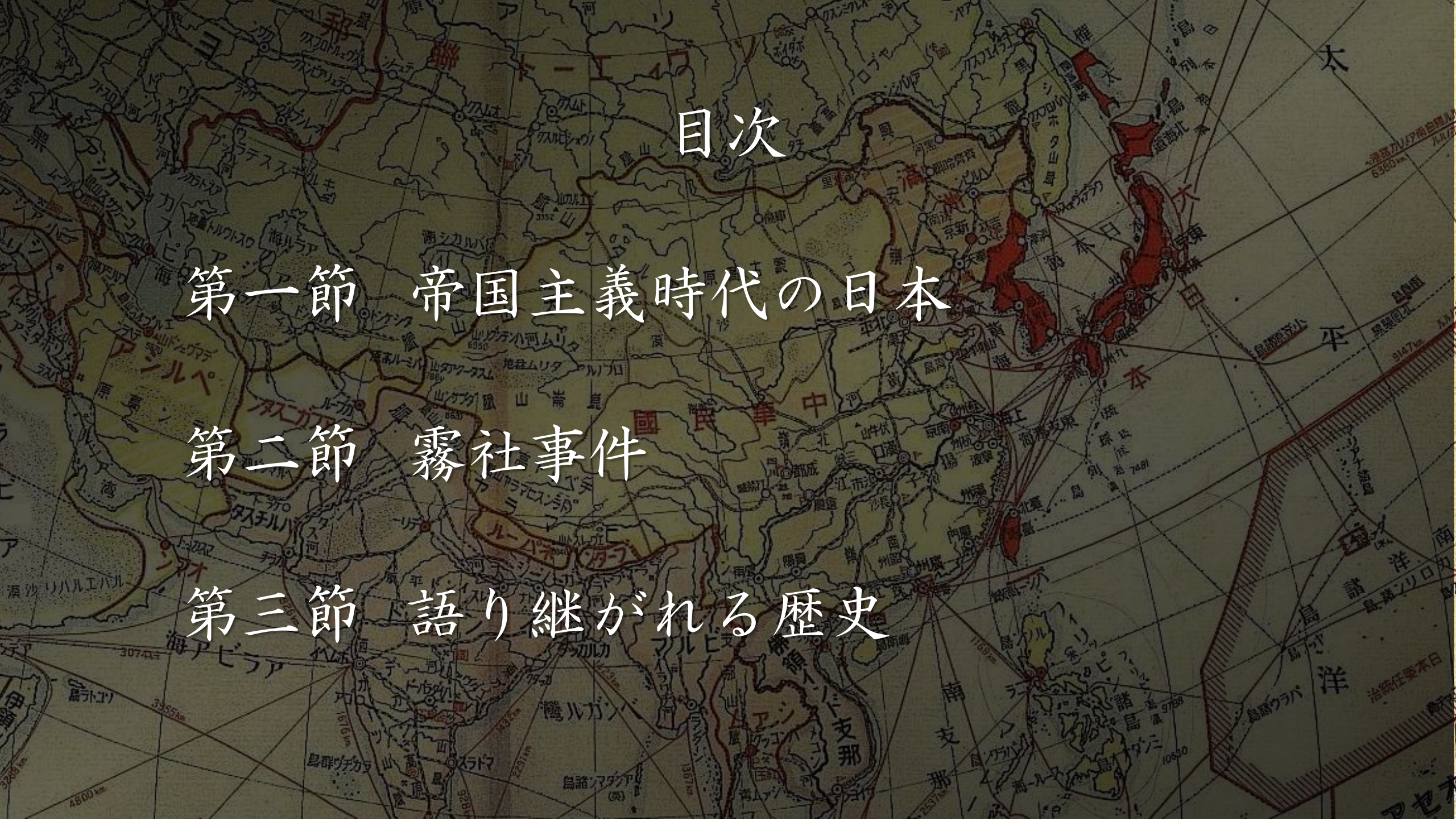


耳塚

豊国神社



耳塚（鼻塚）



目次

第一節 帝国主義時代の日本

第二節 霧社事件

第三節 語り継がれる歴史

第一節 帝国主義時代の日本



NHK「映像の世紀 JAPAN」より

インドの独立運動家が見た日本

〔解説〕

NHK「映像の世紀」が紹介しているように、インドの独立運動家でのち初代首相となるネルーは、十五歳のとき、日露戦争での日本の勝利に大きな感銘を受ける。

一九三二年、独立運動で収監されたネルーは、同じく十五歳になった娘インディラに手紙（十二月二十九日付）を送り、当時の感銘を語っている。



インドの独立運動家が見た日本

「アジアの一国である日本の勝利は、アジアのすべての国ぐにに大きな影響を与えた。わたしは少年時代、どんなにそれに感激したかを、おまえによく話したことがあったものだ。たくさんのアジアの少年、少女、そして大人が、同じ感激を経験した」

ネルー「日本の勝利」（一九三二年十二月二十九日）
『父が子に語る世界歴史』（大山聡訳、
みすず書房、第三卷二二一頁）より



インドの独立運動家が見た日本

「ヨーロッパの一大強国は敗れた。
だとすればアジアは、そのむかし、
しばしばそういうことがあったよう
に、いまでもヨーロッパを打ち破る
ことができるはずだ。」

ナシヨナリズムはいっそう急速に
東方諸国にひろがり、『アジア人の
アジア』の叫びが起こった。」

ネルー「日本の勝利」(一九三二年十二月二十九日)
↳ 『父が子に語る世界歴史』(大山聡訳、
みすず書房、第三卷二二一頁)より



インドの独立運動家が見た日本

〔解説〕

しかし、ネルーが受けた感銘は、やがて失望へと変わっていった。

娘インディラへの翌十二月三十日付の手紙では、軍事力によって欧米列強に伍すようになった日本が、アジアの人々の期待を裏切り、少数の侵略的帝国主義諸国のグループに入ってしまったことへの失望感を語っている。



インドの独立運動家が見た日本

「日本のロシアに対する勝利がどれほどアジアの諸国民をよるこばせ、こおどりさせたかということわれわれは見た。」

ところが、その直後の成果は、少数の侵略的帝国主義諸国のグループにもう一国を付け加えたというにすぎなかった。」

ネルー「中華民国」（一九三二年十二月三十日）
『父が子に語る世界歴史』（大山聡訳、みすず書房、第三卷二二三頁）より



1910年「韓国併合に関する条約」
により日本に併合

日本の帝国主義と植民地支配

欧米列強に倣い、いち早く近代化
を実現した日本は、日清戦争、日露
戦争によって台湾や朝鮮半島を版図
に収め、植民地支配を進めていった。

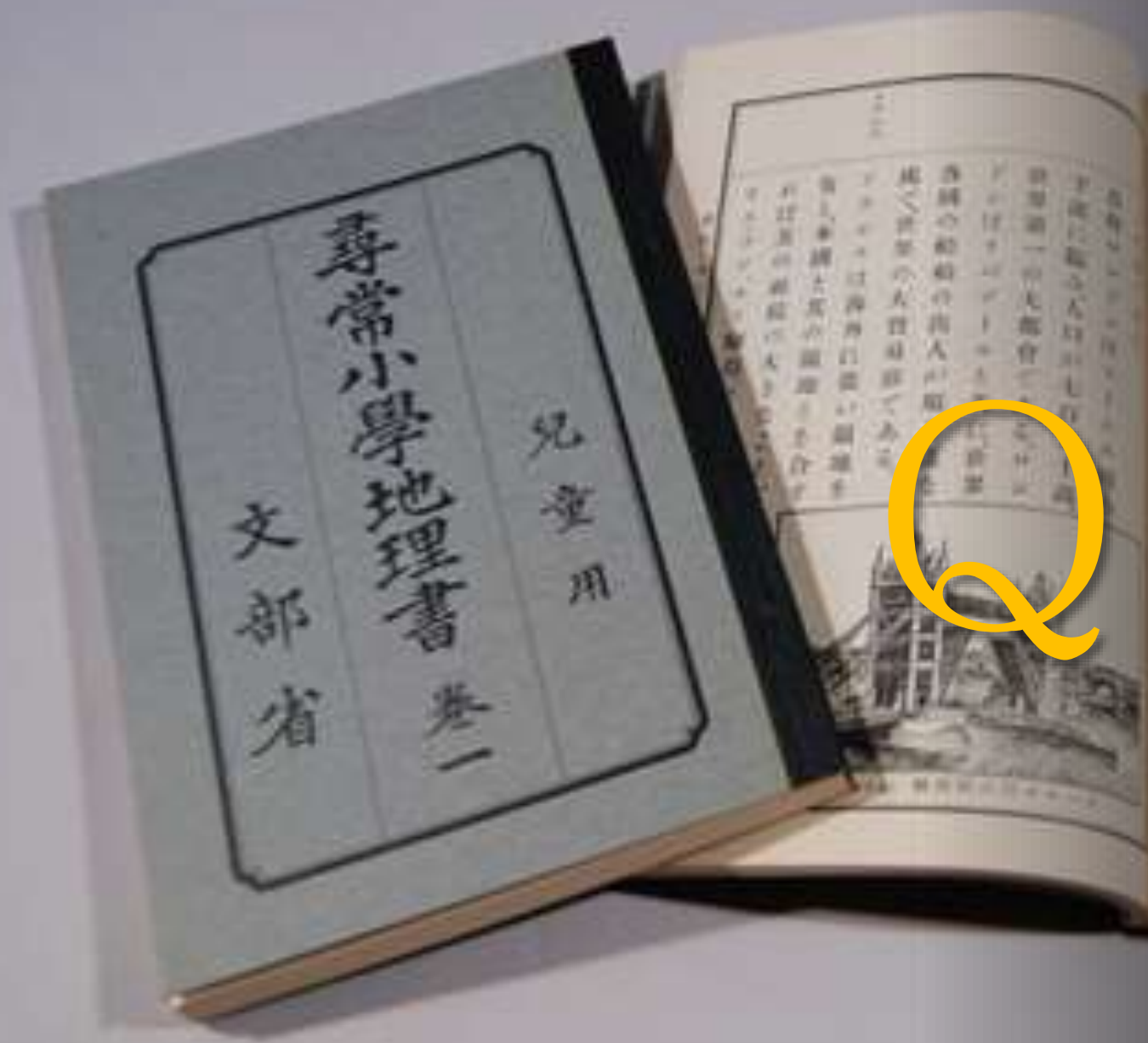
1895年、日清戦争後の下関条約で
日本に割譲



写真は一九一九年（大正八年）に発行された尋常小学校の地理の教科書である。このなかで日本はどのような国と書かれているか？

- ①天皇を中心とする単一民族国家
- ②多くの民族がともに暮らす多民族国家

Q



多民族国家日本

「（わが国は）国民の大多数は大和民族にして、其の数五千四百余万に及ぶ。その他、朝鮮には約一千六百万の朝鮮人あり、台湾には十余万の土人と支那より移り住める三百余万の支那民族とあり。又北海道にはアイヌ、樺太にはアイヌ其の他の土人あり。民族は相異なれども、ひとしく忠良なる帝国の臣民たり。」

文部省『尋常小學地理書・卷一』

（一九一九年発行）



一九二三年、日本を襲ったある大事件が、植民地政策の矛盾を露呈することとなる。その大事件とは何か？

①世界大恐慌

②関東大震災



震災に乘じ猛火の中で 殺人掠奪等戦慄すべき

行動を取った不逞鮮人の群

埼玉縣児玉郡本庄町に於て男女學生、労働者百二十名を同地自警團が虐殺したる事件、群馬縣藤岡警察署部内に於て避難中の土工十六名を藤岡町自警團が虐殺したる事件、又埼玉縣熊谷町にて労働者五十八名を又千葉町船橋町に於て同地方自警團が鮮人工夫十數名を虐殺したる事件及び横濱に於る土工労働者多數の虐殺事件等は既に十月十一、十二、十三、十四日の號外並に本紙に詳報したが、二十日その筋の發表によつて被害者の殆んど全部は朝鮮人であることが判明した、尙東京巢鴨の自警團員が獵銃にて射殺したる日本大學卒業生某は朝鮮前總理大臣の息閑麟植氏であつたことも判明した

(東京電)

然るにこれらは兎に^{鮮人}鮮人が震火の混亂に乘じ殺人掠奪を敢てしたる事件が發表された、東京本所江東方面に於ける朝鮮人の暴行は九月一日の震災當時に於て本所押上町より元町より混亂の朝鮮人寺島向島より大島の各方面に亘つて猛火の中に混れ逃げ惑ふ避難民を襲ひ殺し廻つて盛んに掠奪し殺傷を敢てした、甚しきに至つては焼け落ちて金屬品を持出して逃

げ惑うてゐた本所區押上町一六五牧野彌八商店及柳島元町一六九吳服店富富事中里奥八其他附近一帶の貴金屬商にこの一團の毒手が延び、目星しいと思ふ家財商品品の全部を掠奪し反抗したもの多きをその場で慘めに殺傷し死體は火中に投じて彼等は凱歌を揚げた、當時正午より翌日に至るまでの方面の居住者は救知れぬ殺戮掠奪に遭つたが翌二日更に大島附近の避難區域にて暴行を働く折々龜

戸署及び出動せる軍隊と對峙して猛闘して多數の死傷者を出したが一味の不逞團を指揮してゐた首領格の某金一は十數名の部下と共に巧に警戒線を突破して逃げし一味の匪徒等及び漢奸僞外

數名は現場にて逮捕され戸署より警視廳に送られ取調中であつたが強盜殺人疑獄として東京刑務所に收容された、一方主犯及び共犯の行方については警視廳より全國各府縣警察部に打電極力捜査中である

『大阪朝日新聞』

一九二三年一〇月二一日

関東大震災の中での惨劇

〔解説〕

一九二三年(大正十二年)、関東大震災が起こった。

混乱の中、「震災に乘じ猛火の中で殺人掠奪等戦慄すべき行動を取った」との噂が流れ、朝鮮出身の人々が自警団などによつて虐殺される事件が起こった。



YouTV制作「関東大震災」より

関東大震災の中での惨劇

埼玉県児玉郡本庄町に於て男女学生、労働者百二十名を同地自警団が虐殺したる事件、群馬県藤岡警察署部内に於て避難中の土工十六名を藤岡町自警団が虐殺したる事件、又埼玉県熊谷町にて労働者五十八名を又千葉町船橋町に於て同地方自警団が鮮人工夫十数名を虐殺した事件及び横浜に於る土工労働者多数の虐殺事件等は既に：：詳報したが、二十日その筋の発表によつて被害者の殆ど全部は朝鮮人であることが判明した。

『大阪朝日新聞』一九二三年一〇月二一日

自警団と朝鮮人被害者（『増補保存版かくされていた歴史』より）



② 誤報

① 真実

朝鮮出身の人々が殺人や掠奪を行っていたというのは本当だったのか？

Q

自警団と朝鮮人被害者（『増補保存版かくされていた歴史』より）



不逞自警團

の檢舉

一

泥棒を捕へて見れば我子なり――

大震災當時、不逞鮮人の暴動や掠奪の風説が馬鹿々々しき程まで大袈裟に傳へられ、所謂自警團の組織となり、多数鮮人の殺傷と言ふ大慘劇が行はれたのであるが、今日に至つて調査して見るこゝ、震災のドサクサに乗じて、強盜掠奪等の罪を犯した鮮人の不逞自警團の檢舉

泥棒を捕へて見れば我子なり――

大震災當時、不逞鮮人の暴動や掠奪の風説が馬鹿々々しき程まで大袈裟に傳へられ、所謂自警團の組織となり、多数鮮人の殺傷と言ふ大慘劇が行はれたのであるが今日に至つて調査して見ると、震災のドサクサに乗じて、強盜掠奪などの罪を犯したものは不逞の日本人であつて朝鮮人ではなかつた事が明らかになつた。何と言ふ皮肉であらう。

『大阪朝日新聞』（一九二三年一〇月二七日）

の暴動によりて日本の國體が今にも動搖するかの如く慌てふためき、遂に血氣にはやりたる自警團の各所に於ける鮮人大殺傷となつたのは、如何に辯護しても、日本國民に沈着冷靜の訓練を缺き、非常時に際して常識を失はざるの用意が足りなかつた證據と言はなければならぬ。

四

加之、自警團の暴行が、怪しむべき鮮人、又は抵抗したる鮮人に對してのみ加へられたものであれば尙恕すべきであるが、血を見て狂せる彼等は、苟くも朝鮮人さへ見れば片端しから何の容赦もなく殺す。明らかに、鮮人の暴動や掠奪の風説が馬鹿々々しき程まで大袈裟に傳へられ、所謂自警團の組織となり、多数鮮人の殺傷と言ふ大慘劇が行はれたのであるが今日に至つて調査して見ると、震災のドサクサに乗じて、強盜掠奪などの罪を犯したものは不逞の日本人であつて朝鮮人ではなかつた事が明らかになつた。何と言ふ皮肉であらう。

＊不逞鮮人……植民地支配からの解放を求めて武力闘争を行つていた朝鮮の独立運動家に対する蔑称。

人々がデマに惑わされ暴徒化する
中、朝鮮の人々を守ろうとした人は
いなかったのか？

①いた

②いなかった

自警団と朝鮮人被害者（『増補保存版かくされていた歴史』より）

アジアの人々を暴徒から守った警官

〔解説〕

関東大震災の混乱の中、朝鮮の人々が殺人掠奪を行っているとのデマが流された。

このデマに惑わされた自警団や青年団などが暴徒化する中、朝鮮や中国の避難民約三百名を守った警官がいた。当時、神奈川警察署鶴見分署長であつた大川常吉である。



大川常吉 (1877～1940)

中島司『震災美談』（一九二四年）

「罪なき者を苛むは蛮行である。
わが大和民族の特性は敵人と雖も之
を憫れむ所に存する。況んや朝鮮人
は日本の国民である……
鮮人に手を下すなら下してみよ。
此の大川から先に片付けた上にしろ。
われわれ署員の腕の続く限りは、一
人だって君達の手には渡さないぞ」



大川常吉（1877～1940）



第二節 霧社事件

台湾の先住民族

明治維新によって近代化を実現し、西欧列強による植民地獲得競争に加わった日本は、一八九五年(明治二十年)日清戦争の勝利によって最初の植民地を獲得する。台湾である。そこには中国本土から移民した漢族系住民のほかに、オーストロネシア語族に属する先住民族が暮らしていた。





NHK「台湾先住民高砂族の20世紀」より

台湾の先住民族

〔解説〕

現在、台湾の先住民族は「原住民」と呼ばれ、右図のように十六種族に分類されている。



日本の警察の圧政に蜂起した先住民

〔解説〕

日本統治時代、台湾の先住民居住区（蕃地）では、警察が治安のほか、行政、開発、教育、司法などを併せた強大な権力を持っていた。

台湾の植民地支配が安定期を迎えていた一九三〇年、台湾中部の山岳地帯に暮らす先住民セデック族が、日本の警察の圧政に耐えかねて蜂起した。



軍と警察による鎮圧

〔解説〕

先住民たちは各地の派出所を襲撃した後、運動会が開かれていた霧社公学校を襲い、日本人一三四人を殺害した。

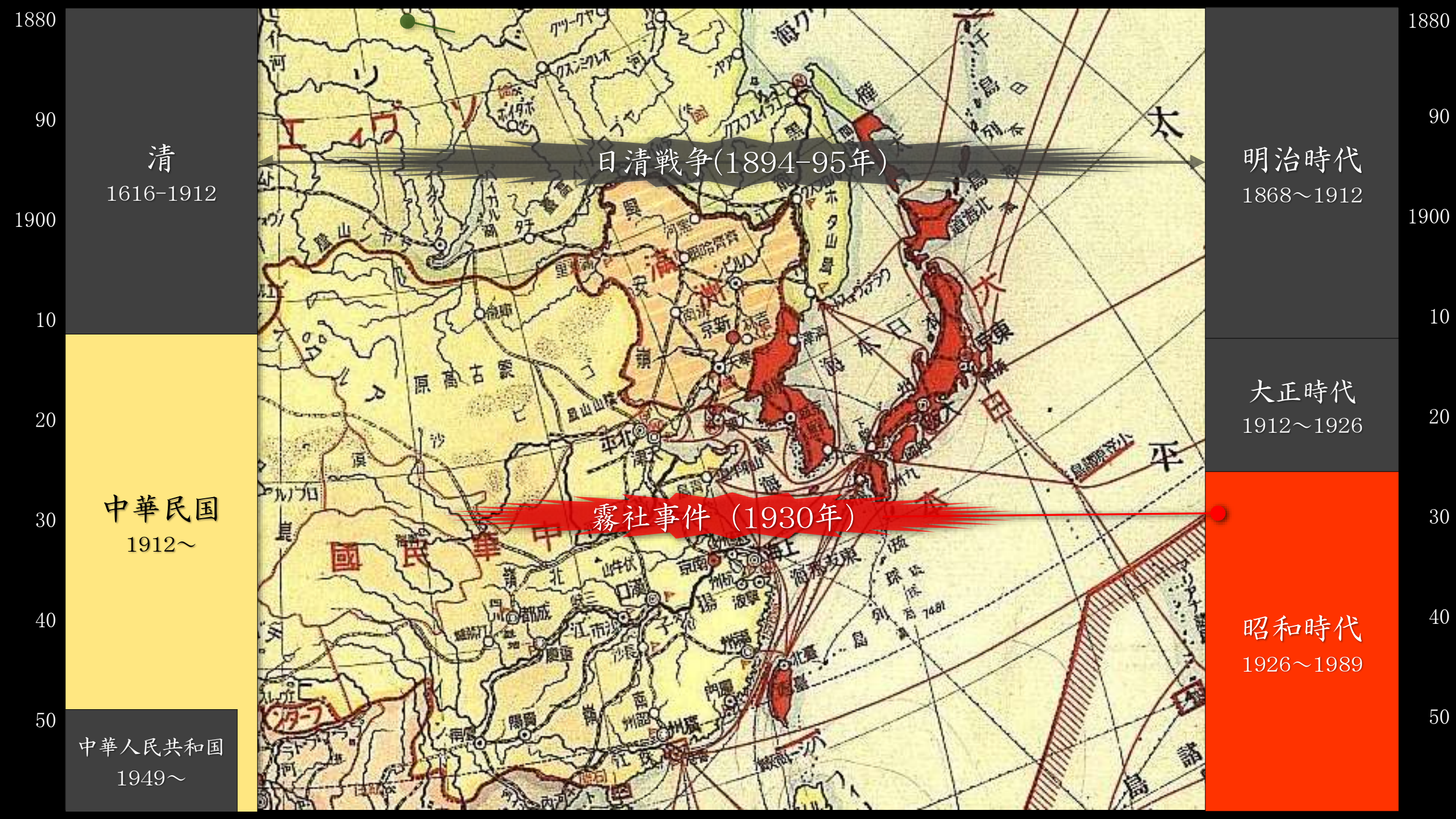
これに対し、台湾総督府は軍隊、警察を派遣して徹底した鎮圧を行ない、さらに部族間の対立を利用して、投降した先住民を襲撃させた。

この一連の事件を霧社事件と呼ぶ。





NHK「台湾先住民高砂族の20世紀」より



清

1616-1912

日清戦争(1894-95年)

明治時代

1868~1912

中華民國

1912~

霧社事件 (1930年)

大正時代

1912~1926

昭和時代

1926~1989

中華人民共和國

1949~

蜂起した先住民側の証言

〔解説〕

先住民たちはなぜ蜂起したのか。
霧社事件に参加したセデック族ホー
ゴ社出身のアウイヘツパハ（日本
名・田中愛二、中国名・高愛徳、一
九一六〜？）氏は、先住民側からの
貴重な証言を残している。

氏の証言と、近年制作された台湾
映画『セデック・バレ』を通して、
この事件の経緯を見てみよう。

〔写真〕アウイヘツパハ『証言 霧社事件——台湾山
地人の抗日蜂起』（草風館、一九八五年）



台湾映画「セデック・バレ」

〔解説〕

二〇一一年に公開された台湾映画
（魏徳聖監督）。

霧社事件の指導者であるモーナ・
ルーダオを主人公に、一八九七年に
起った深堀大尉探検隊殺害事件から
一九三〇年の霧社事件までを先住民
の視点から描いている。

第一部「太陽旗」と第二部「虹の
橋」の計四時間半におよぶ超大作。



賽德克巴萊

Seediq Bale

9.09 太陽旗

9.30 彩虹橋



以下、アウイヘツパハの証言と、
映画『セデック・バレ』を通して、
霧社事件とはどのようなものであつ
たのかを追体験してみたい。

セデック・バレ

Seediq Bale

第一部 太陽旗

第二部 虹の橋

監督・脚本：ウェイ・ダーション『海角七号／君想う、国境の南』

第100回アカデミー賞 国際映画賞
正式出品
第7回大阪アジア映画祭
観客賞
アカデミー外国語映画賞
2011年台湾代表作品

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「日本人が来て支配する前には、我々は自由に、そして愉快に、思いのままに狩りを楽しみ、農耕にはげんできたのだが、駐在所が置かれて巡査が来てからは、ひどい目にあわされるようになった。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二四頁)



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「我々にはたった一片の人間らしい
誇りすら持つことが許されなかった。
バカヤロー!とどなられたとたんに、
我々はもう拳骨を食らっている。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二四頁)



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「昭和五年（一九三〇年）頃は、山地も平静になっていて、もう抗日事件など起こらないとみんなは思っていたであろうが、山地の日本人巡査の奴隷政策は相変わらず続けられていた。貧しい我々を一番苦しめたのは、労働問題であつた。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

（草風館、一九八五年、二八頁）



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「日本人の巡査は我々を野蛮人から文明人に導くといいながら、かえって「生蕃」とか「蕃人」とか「蕃コロ」とかいつて蔑んで、貧しい我々の利益を無視し、度重なる幾多の労役で我々を苦しめた。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

（草風館、一九八五年、二九頁）



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「あの険しい山道を重い丸太を担いで運べるものではない。一步足をすべらしたら、断崖絶壁へまっさかさまだ。我々は昔から坂道を下る時には、材木を引き摺って運ぶ。それを日本人の巡査は檜材に傷がついて、鉋がかけられないと言って、担送を命じたのだ。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二九頁)





台湾映画「セデック・バレ」(2011年)より

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「我々にとって最も耐えがたいことは、日本人巡査が権力をたてに、我々部落の女を性のはけ口に利用したことだった。強姦と私生児の誕生という問題は、かつて我々の社会にはなかったことである。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二五頁)



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「一〇月七日、マヘボ社で：結婚前祝の宴会が開かれた日のことである。娯楽の少ない我々の社会では、結婚式の酒宴は非常に楽しいもので、数日にわたって飲み、豚をつぶして食らい、日に夜を徹して踊り狂うのであった。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

（草風館、一九八五年、二七頁）



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「ただ、その日は、酔ったタダオモーナ(頭目モーナ・ルーダの長男)と日本人巡査吉村克己との間に殴打事件が起きた。吉村はタダオモーナが血染めの手でさしだした黄色く濁ったドブ酒と手掴みの豚肉の饗応を、ステッキでたたき落とした。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二七〇八頁)



アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「タダオモーナの好意と尊厳は、恥辱に变じ、激情した彼は吉村の背を打ち返した。」

酒宴はたちまち恐怖に包まれた。日本人に手向かった後には、どんなひどい仕打ちがくだされるか……。日本人殺しの気運は、刻一刻と醸し出されていった。」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、二八頁)





台湾映画「セデック・バレ」(2011年)より

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

「一〇月二七日、霧社小学校、公学校及び蕃童教育所合同運動会の日。この日以外には、霧社の日本人を殲滅するチャンスはもうやってこない。蜂起の結果が敗北と死の一途しかないことを知りつつ、民族の自由と尊厳のために、雄々しく立ち上がった」

アウイヘツパハ『証言霧社事件』

(草風館、一九八五年、三一頁)





台湾映画「セデック・バレ」(2011年)より

警察と軍による鎮圧

〔解説〕

蜂起によって、運動会に集まった日本人一三四名が殺害された。

蜂起に参加した六つの社の総人口は一二三六人、このうち戦闘員は三百人ほどだった。これに対して日本は警察官一三〇六人と軍隊一三〇三人の計二六〇九人を動員し、さらに敵対関係にある部族を加えて鎮圧に当たった。

蜂起に加わった台湾先住民の六つの社ではどのくらいの人々が死亡したか？

- ① 総人口の約半数に当たる六百人以上
- ② 戦闘員の約半数に当たる百五十人以上



警察と軍による鎮圧

〔解説〕

二ヶ月近い戦闘で、蜂起した六つの社は、総人口の半数以上に当たる六四四人（男三三二人、女三二二人）が死亡、うち二九六人（男一二七人、女一六九人）が自殺であつた。
*

*台湾総督府警務局編『霧社事件誌』兇蕃戦病没者調（戴国輝編著）『台湾霧社蜂起事件・研究と資料』社会思想社、一九八一年所収）

鎮圧に当たった日本の軍隊と警察からはどのくらいの死者が出たのか？

- ①軍隊と警察あわせて二十八名
- ②軍隊と警察あわせて二百八十名



警察と軍による鎮圧

〔解説〕

一方、飛行機や大砲など近代兵器を使った日本側は、軍隊の戦死者数 **二十二名**、警察官の戦死者数 **六名** だけであった。

軍隊・警察隊戦死者数*

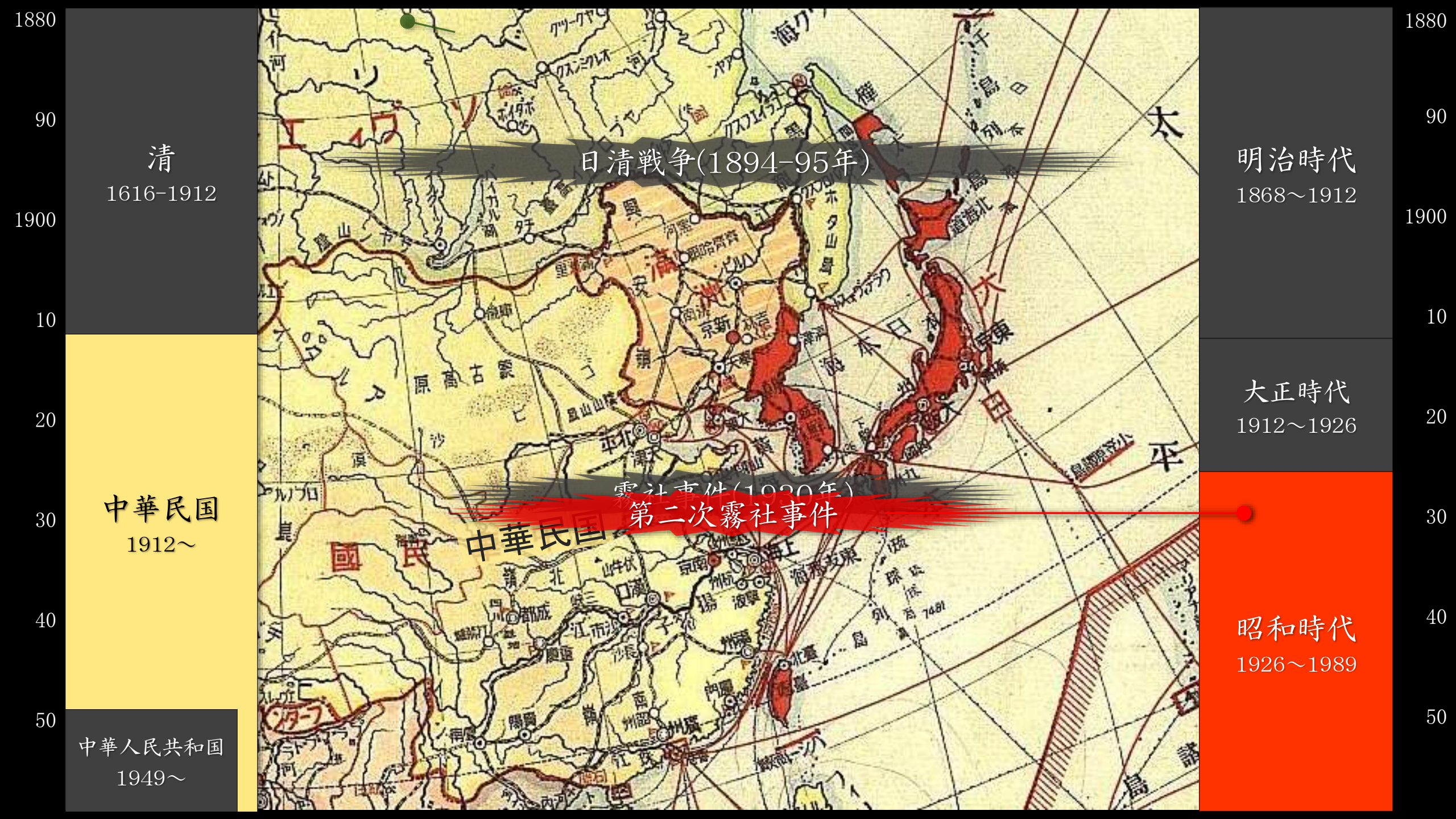
・軍隊

戦死者二十二名(将校一、下士七、卒一四)

・警察隊

戦死者六名(警部一、巡查五)

*台湾総督府警務局編『霧社事件誌』戦死傷者一覧(戴国輝編著『台湾霧社蜂起事件・研究と資料』社会思想社、一九八一年所収)



第二次霧社事件

〔解説〕

蜂起した六社の生き残りは二つの部落に収容された。人口は蜂起前の一二三六人から五六四人に減っていた。

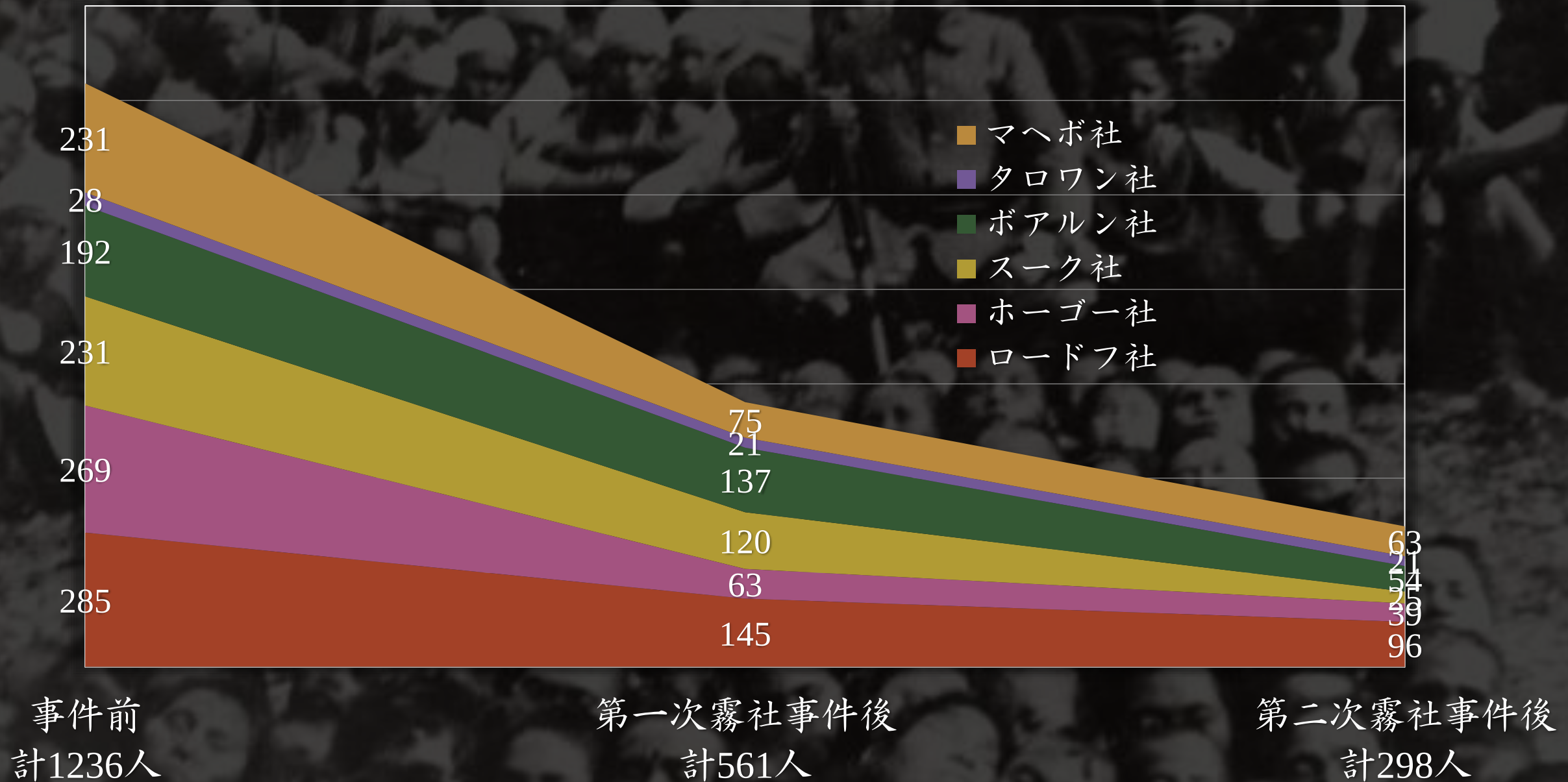
その収容所を敵対する部族（タウツア）が襲い一九五人を殺害した。

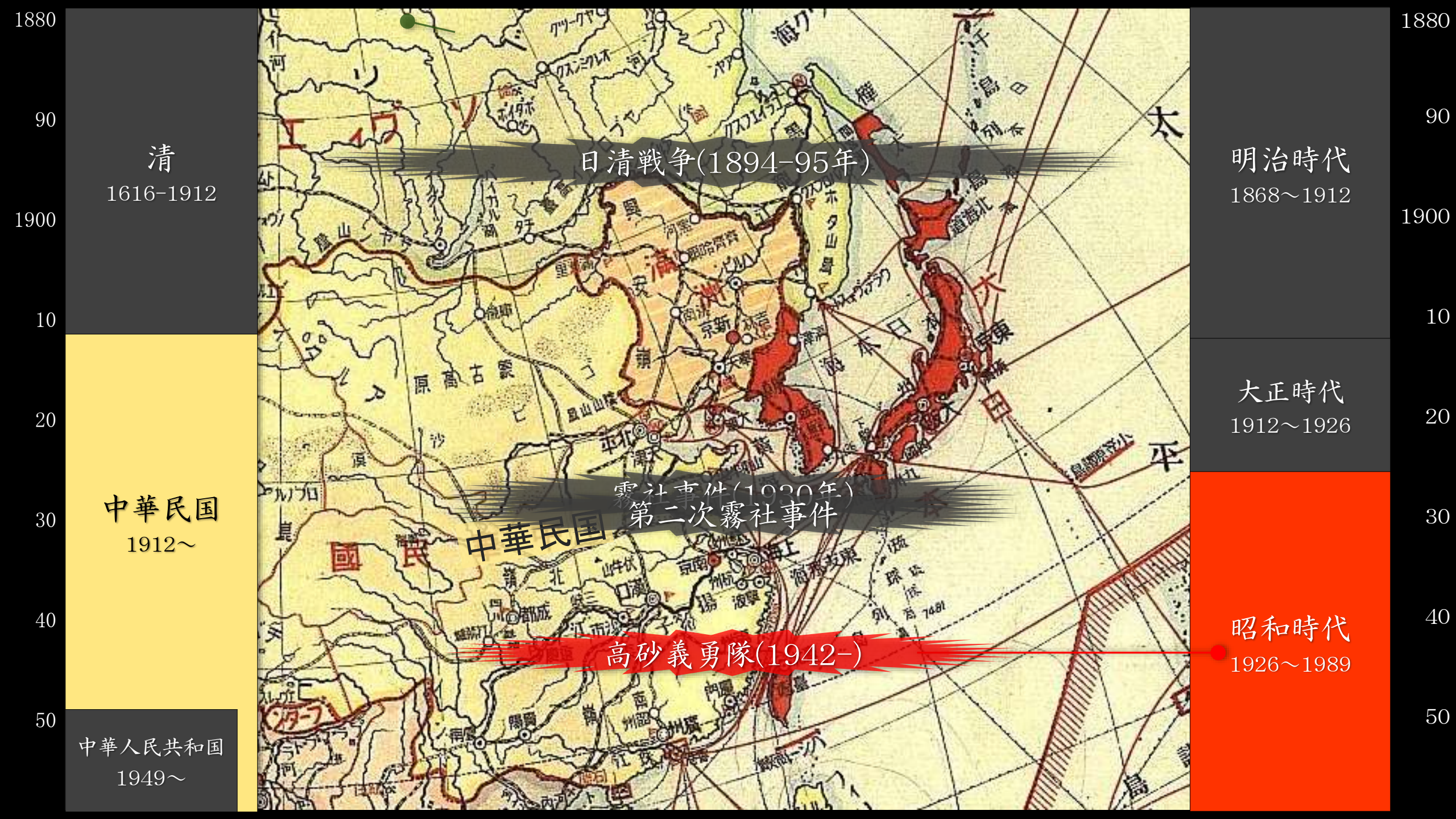
これを第二次霧社事件と呼ぶ。*

二度の事件を経て、蜂起した六社の七十六％が殺害または自殺し、生き残った二九八人も翌一九三一年五月六日、別の土地へ強制移住させられた。

*当時、タウツア駐在所の巡查部長だった小島源治の証言によれば、この襲撃は警察上層部の指示を受けて行われたものという。（江川博道『昭和の大惨劇霧社の血桜』私家版、一九七〇）

蜂起した台湾先住民六社の人口の推移





太平洋戦争と「高砂義勇隊」

〔解説〕

事件から十一年後、太平洋戦争が始まると、日本は先住民の若者たちを日本軍の軍属「高砂義勇隊」として南方戦線へ送った。

隊員の募集は一九四二年三月から計七回行われ、四二〇〇人が出征した。

霧社事件の生存者からも二〇名が出征し、その内生還できた者は八名だけだった。



第三節 語り継がれる歴史





霧社事件の首謀者モーナ・ルダオ

〔解説〕

モーナ・ルダオ（一八八二年？～一九三〇年）は、セデック族マヘボ社の頭目。一九一一年（明治四四年）には第一回蕃人日本内地観光に参加し、近代化した日本の姿を見ている。霧社事件の後、行方不明になっていたが、三三年に遺体が発見された。

台湾テレビドラマ「風中緋櫻」

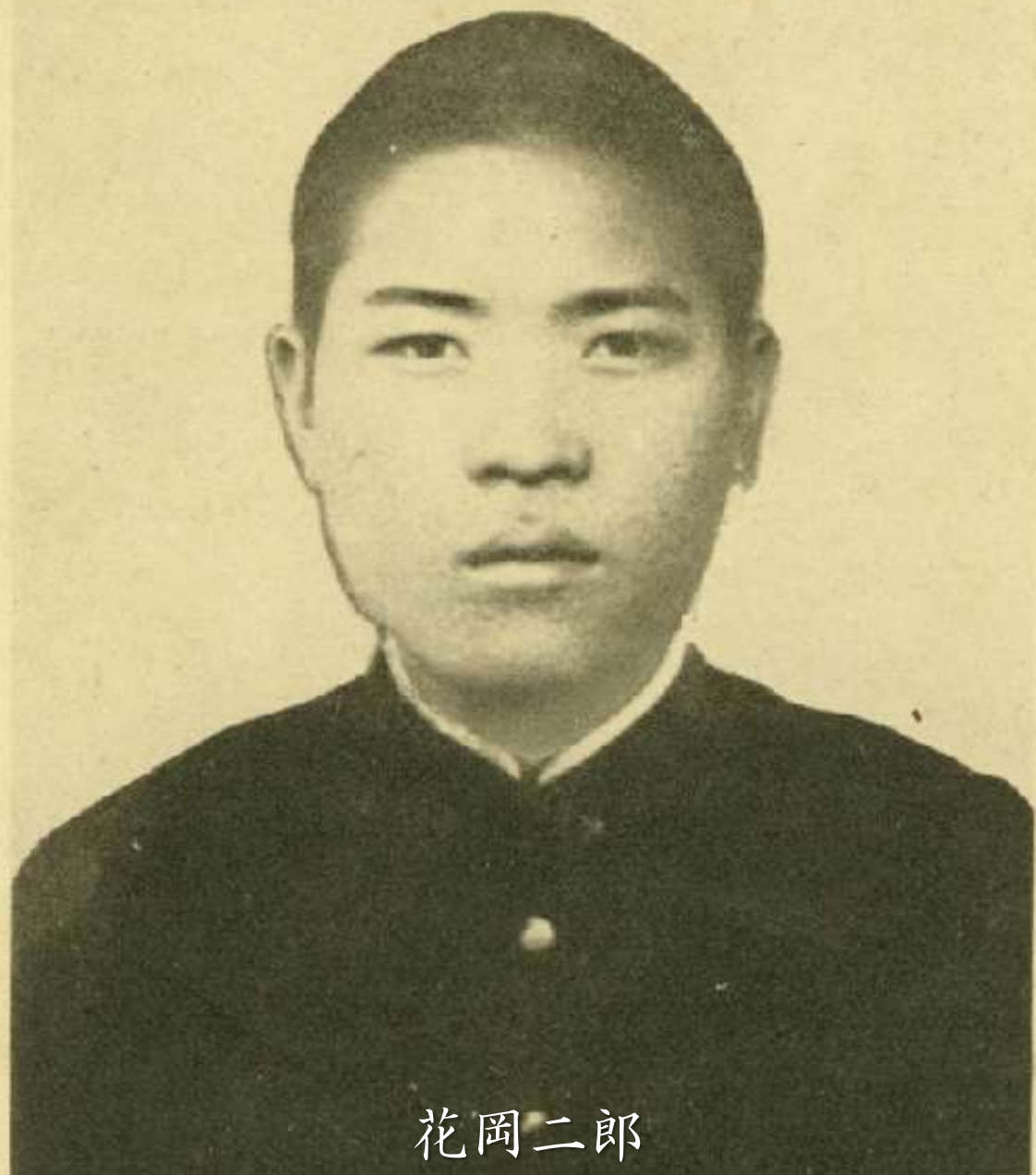
〔解説〕

台湾の公共テレビが、二〇〇四年に制作したドラマ。

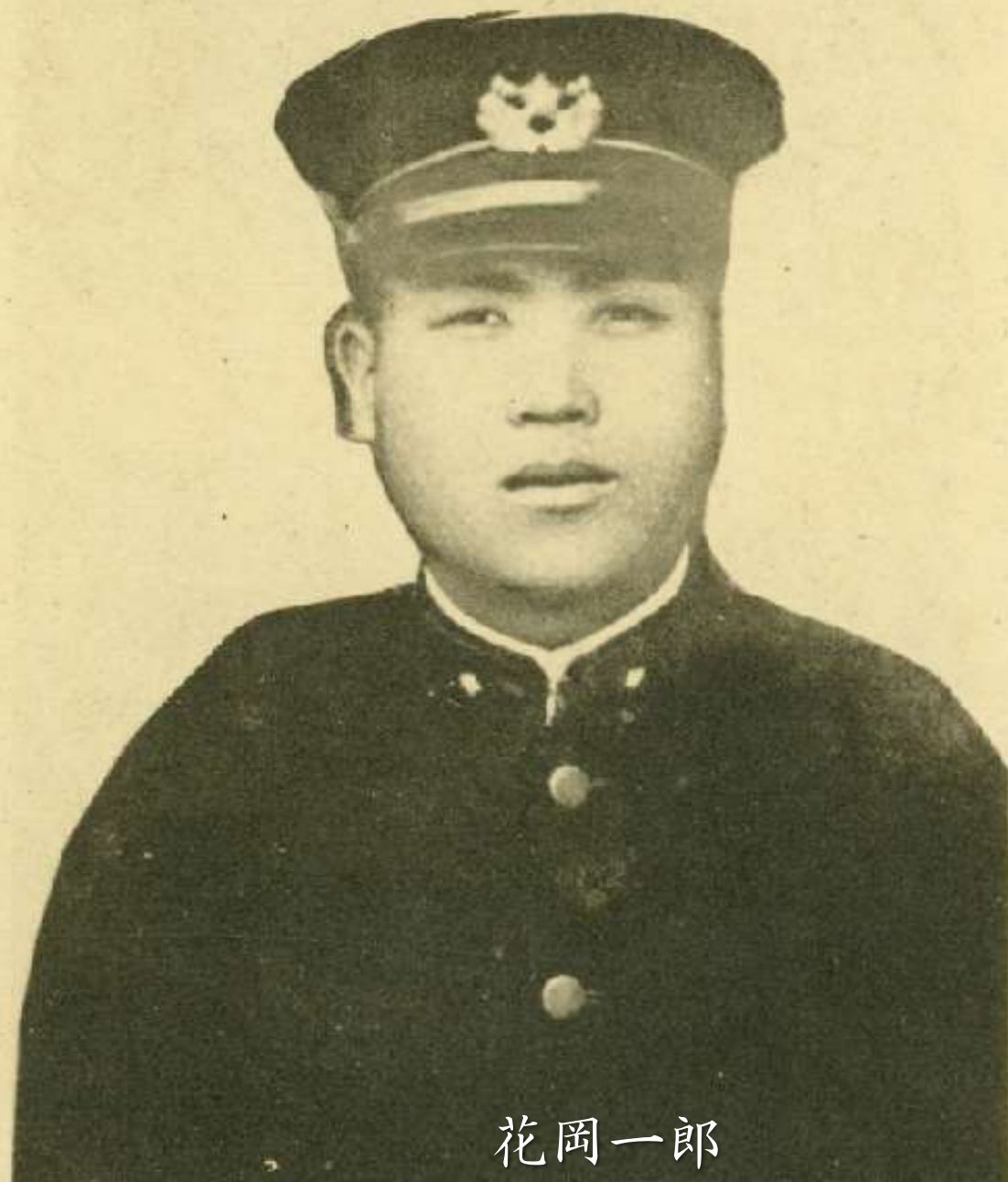
霧社事件の生存者オビン・タダオ（日本名・初子）を中心に、「模範蕃童」として教育され、事件の中で日本と自民族の板ばさみになって自殺した花岡一郎、二郎、花子の短い生涯と、生き残った人々のその後を描いている。







花岡二郎



花岡一郎

生き残った「模範蕃童」の証言

〔解説〕

オビン・タグオ(日本名・初子)は、花岡一郎や二郎と同じく先住民児童の中から選ばれてエリート教育を受けた「模範蕃童」であつた。

事件を生き延びた彼女は、日本と自民族の板挟みになった「模範蕃童」の視点から多くの証言を残している。



(右) てしに妻の人兩郎二岡花・郎一岡花
子初妻の郎二(左) 子花妻の郎一

生き残った「模範蕃童」の証言

「（一郎と二郎の）二人は日本人と同胞の板挟みになって、悩んでいた。

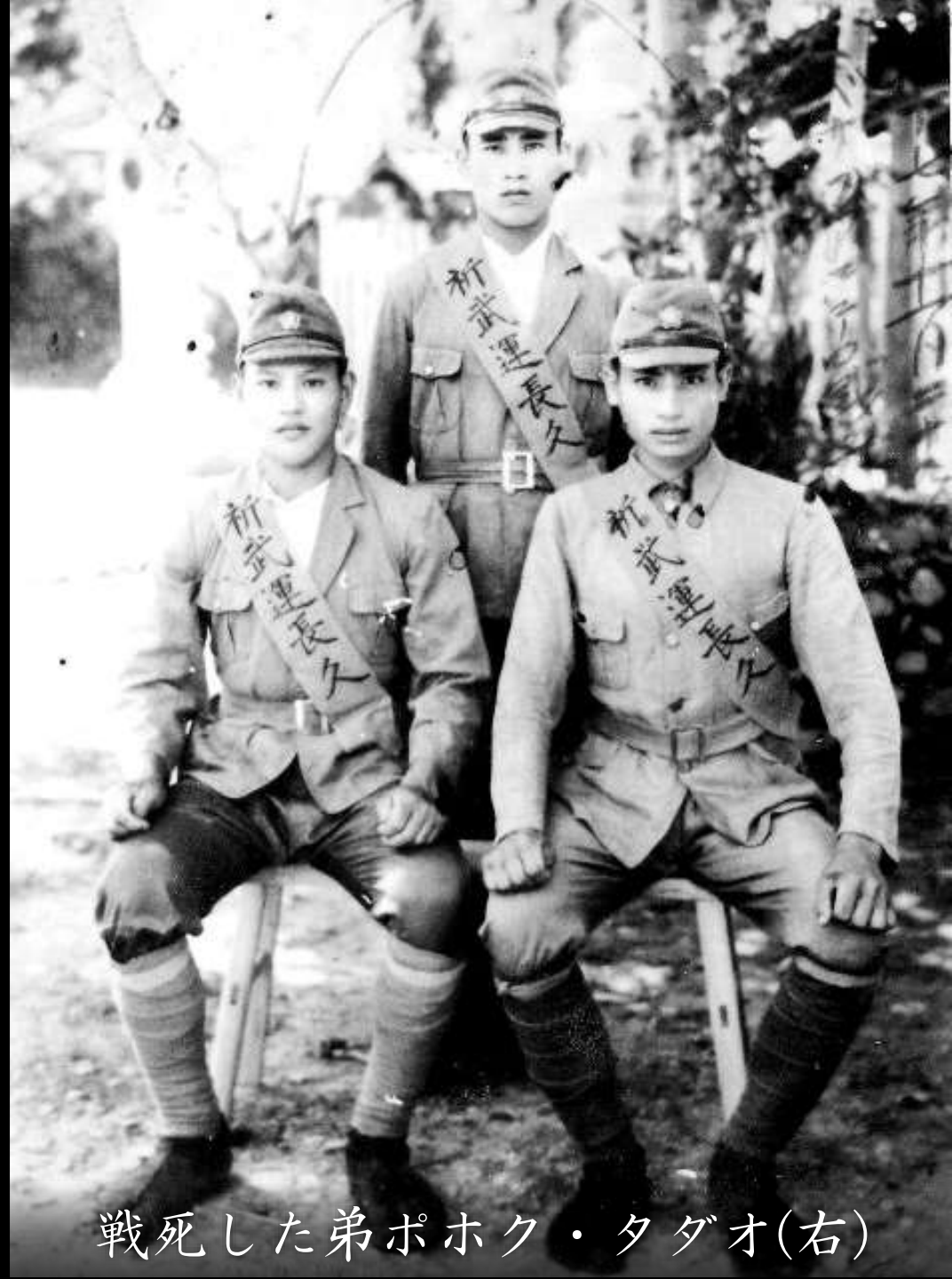
日本の警察に苦しめられている同胞の怒りは、よく理解できる。しかし、教育を受けたわれわれが日本人に手向かったら、今後、同胞は教育を受ける機会を失うにちがいない。『わたしたちには死ぬよりほかに道はない』」

中村ふじゑ『オビンの伝言』

（梨の木舎、二〇〇〇年、四〇頁）



オビン・タグオ(日本名初子 1914～96)



戦死した弟ポホク・タダオ(右)

「高砂義勇隊」として戦死した弟

〔解説〕

事件から十一年後、太平洋戦争が始まると、日本は先住民の若者たちを日本軍の軍属「高砂義勇隊」として南方戦線へ送った。

オビンの弟であるポホク・タダオ（日本名・川村大夫・写真前列右）もこれに志願し、戦死した。



『現代の日本史A』（山川出版）

（台湾では第一次世界大戦後）住民のあいだから台湾議会の設立や地方自治の確立を要求する民族運動が展開され、さらに一九三〇（昭和五）年には先住民が警察の横暴に反発して蜂起する霧社事件もおこった。

＊『現代の日本史A』（山川出版、コラム「日本の植民地統治：台湾と朝鮮」より。なお、二〇一三年度の歴史教科書全二十六点中、霧社事件の記述があるのは、中学校用教科書二点と高校用教科書二点の四点のみとなっている。

まとめ

明治維新によって近代化を実現し、西欧列強の植民地獲得競争に加わった日本は、一八九五年(明治二十八年)、日清戦争の勝利によって最初の植民地となる台湾を獲得した。

台湾はこれまで日本が経験したことのない多民族社会であった。中国本土から移民した漢族系住民のほか、オーストロネシア語族に属する先住民族が暮らしていた。

台湾の植民地支配が安定期を迎えた一九三〇年(昭和五年)、台湾中部の山岳地帯に暮らす先住民が、日本の警察の圧政に耐えかねて蜂起した。

日本は警察と軍隊を派遣して徹底した鎮圧を行い、さらに投降した部落民を対立する他の部落民に襲撃させた。その結果、蜂起した部落民の七十六%に当たる約千人が死亡した。

参考資料

- ①戴国輝『台湾霧社蜂起事件研究
と資料』（社会思想社 一九八一年）
- ②アウイヘツパハ『証言霧社事件』
台湾山地人の抗日蜂起』（草風館、
一九八五年）
- ③林えいだい『証言 台湾高砂義勇
隊』（草風館、一九九八年）
- ④中村ふじゑ『オビンの伝言』（梨
の木舎、二〇〇〇年）
- ⑤テレビドラマ「風中緋櫻」（台湾
公共電視台、二〇〇四年、日本未
公開）
- ⑥映画「セデック・バレ」（原題賽
徳克・巴萊 Seediq Bale、二〇一
一年公開）